

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	名古屋大学	整理番号	R02
プログラム名称	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム		
プログラム責任者	松下 裕秀	プログラムコーディネーター	武田 一哉
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を確実に遂行しており、中間評価結果への対応も着実に実施されている。 ・海外派遣実績は平成 26 年度から 28 年度にかけて合計で 100 件を超え、滞在中に多くの国際会議論文を採択させた履修生や、滞在先で国際的トップ企業の研究員に採用された履修生等が出てきている。 ・産学協働創造的グループワークでは、異分野の学生と社会人メンターの混成チームで市場調査やプロトタイピングを通じて実世界データ循環を学んでいる。その中で、履修生によって考案されたカードゲームが平成 29 年度中に製品化・販売予定となったとのことである。 ・独創的研究活動では異分野学生の協働による自主研究において、平成 28 年度に採択された 2 件それぞれが世の中に発信できる具体的な成果を出している。 ・学生選抜は 3 日間かけて行い、産業科学リーダーを志向する学生を採用している。平成 29 年度は、24 名の応募者から 14 名のみを選抜するなど当初から高倍率を維持しており、外国人比率も 50% であり、継続的に多様かつ優秀な学生が確保されている。 ・「場を与え経験を評価する」ことを目的として、SNS と学修履歴及び多角的な能力の評価システムである e アゴラシステムを連動し、「俯瞰」や「独創」など 7 つのコンピテンシーを本プログラム関係者全員が共有、把握できるようにしてあり、ソーシャルレビューの実装もなされている。 ・2 年飛び級で PhD 取得予定の学生も出現しており、アカデミア人材の育成も順調である。 ・昨年度の現地視察の際に面談をした多くの学生がその後も順調に成長し、起業化にも成功しているようである。 ・個々の研究室の先端的な知識を組織化し、社会課題の解決を目指して学生ベンチャーネットワークが構築されている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位審査の視点をピアレビューからソーシャルレビューにシフトさせるという挑戦的な取り組みを進めているが、ソーシャルレビューにおける審査基準に関しては、更なる検討が期待される。 ・学位論文において、実世界データ循環とその社会的価値を考察するとのことであるが、審査基準の明確化が期待される。 ・D2 学生の博士研究計画審査会において、各履修生が実世界データ循環に関する知見を組み入れているとのことであるが、今後はこうしたインスタンスを積み上げ、一般化することで実世界データ循環の概念が構築されていくことが大いに期待される。 ・既存のデータサイエンスとは一線を画す、新たな学問領域としての「実世界データ循環学」の構築を目指してほしい。 ・リーダーズサロンとリーダーズスタジオは、データ解析講義、解析演習・プログラミング、ディスカッションの場、ものづくりの場として活用されているようだが、データ循環の実践の場としての更なる活用を期待したい。 			